

アメリカにきた初日に言われると、あまりいい気持のするものでない。

言葉の不自由さと民族差別を思うと、日本人一世がアメリカに渡って生活してきたのは大変な努力だと感心し

ないわけにはいかない。

これを思えば、日本の天文学者ももっと国際的であるべきだし、もっとバイタルであって良いのではなかろうか？

## 夜 の ボ ー ル ダ 一

斎 尾 英 行\*

夜のキャンパスは意外と人通りが多い。キャンパス内に学生寮があるからであろうか。図書館は夜おそくまで開いているし、ほとんど毎晩、安く見られる映画をやっている。それに、スクールバスは夜も走っている。このような恵まれた環境で学生生活を送ることのできる、アメリカの学生がうらやましいかぎりである。学生について、すぐ思い浮かぶものの一つは、リュックサックである。こちらの学生は、教科書等を運ぶのに小型のリュックを使う場合が多い。スカートとリュック、日本では見られない風景なので、こちらに来た当初は、ちょっと変な感じがした。今では別に、どうとも感じなくなった。人間の感覚が、容易に感化されてしまうものであることを、今さらながら感じる。

ボルダーは、デンバーの空港から車で三、四十分の距離にある、学生の多い、あまり大きくない町で、人口は7~8万だと思う。それにもかかわらず、スーパーマーケットとか、ハンバーガーの店とかが夜遅くまで開いていて、私のような夜行性人間にとて、いたって住みやすい町である。

私は Joint Institute for Laboratory Astrophysics (JILA) に昨年の9月から来ている。肩書きは Research Associate、計算が仕事である。こちらに来て、すでに一年以上過ぎたのであるが、英語はダメで、英語を一文もししゃべらない日のほうがが多いのではないかと思われる。おかげで、ラジオを聞きながらのナガラ仕事が身につき、こちらの歌謡曲とずいぶんなじみ深くなった。（もちろんメロディーだけ。）

有難く思う事は、計算機が保守の時間を除いて、ほとんどいつでも使える状態にあることである。JILA がコロラド大学と National Bureau of Standards (NBS) の共同経営であるおかげで、私は大学の計算機 (CDC 6400) と NBS の CDC 6600 を使っている。JILA には、物理教室と共に、カードリーダーと高速ラインプリンターの使える端末があるので、計算センターに行かなくても用が足りる。それに、午前8時から午後5時までの間には、計算センターと各部門の端末との間に1時間程度の間隔で連絡車が走っていて、計算センターのプリンターに出した結果でも配達してくれる。（センター

にはゼロックスのプリンターがあって、結果をレター用紙の大きさの紙に出すことができる。）便利なシステムだと思う。この端末と計算センターとの間（～3km）はレーザーで交信がなされている。しかしながら、このレーザーの威力も吹雪には弱く、雪が強く降ってる間、この交信システムはダウンする。ボルダーは、さほど雪の多くない所であるが、連絡車の走っていない時間に計算をやっていて、吹雪になると、止むのを待つか、急ぐときは雪の中を計算センターまで出かけて行くことになる。昨冬は寒さが厳しく、夜に計算センターまで、行ったことが二、三度あった。雪の降る夜もまた趣があつていいものである。計算センターは意外と狭いが、夜でも休日でも結構人がいて計算をやっている。（センターは、土曜日の午後十時から日曜日の朝まで閉館されるのを除き、他の日には24時間開館されている。）そこには、コーヒーとか、食べ物の自動販売機があって居心地が良い。

NBS の計算機は、ほとんどの場合、TSS の端末を使って計算している。NBS のプリンターに出した結果は、学生アルバイトの人が日に三、四回往復して取って来てくれる。どちらの計算機も日中はかなり混んでいるので、5時以後か休日に計算するのが能率が良い。それに、夜と休日には、priority を下げた安い計算も、さほど待たなくてやってくれるので、経済的である。したがって私の生活時間は、こちらに来て以来、しだいにぎりて行き、今では、日が高くなないと目が覚めなくなってしまった。

こちらに来る前の予想に反し、夜とか休日でも仕事をしている人が案外いる。特に院生とか、パートナントな職を持たない、私と同類の人達を、夜かなり遅くなつて見かけるのも稀ではない。便利に思うことは、JILA の図書室とか、共通に使う機器のある部屋の鍵が共通で、持っている鍵で開くことが出来る事である。計算機利用の環境とあわせて、時間外でも不便を感じないで仕事の出来る環境がとても気に入っている。

JILA の建物は、10階建ての四角い建物で、十階が図書室となっている。西側の窓にはロッキー山脈の端の山、東には地平線が見られる。広びろとした、乾いた地形がきれいである。

1979年 晩秋

\* 東北大・理 Hideyuki Saio: